

東京武蔵野多摩ワイズメンズクラブ

2015年4月号《No.10》

東京YMCA西東京センター内 〒186-0002 東京都国立市東1-20-102

TEL 042-577-6181/FAX 042-577-5574

今月の聖句

貧しい人々は、幸いである、神の国はあなた方のものである。今飢えている人々は幸いである、あなたがたは満たされる。今泣いている人々は幸いである、あなたがたはわらうようになる。

ルカによる福音書6章20～21節

主題

国際会長	Isaac Palathinkal	「言葉より行動を」「今すぐやろう！」
アジア地区会長	岡野 泰和	「未来を始めよう、今すぐに」 「ひとつのアジア、世界はひとつ」
東日本区理事	田中 博之	「誇りと喜びを持って」
あずさ部長	望月 勉	「スピードをもって前に進もう」
武蔵野多摩会長	宮内 友弥	「共に学びあい、活かされる社会を目指して」

ワイズメンズクラブモットー

強い義務感をもとう 義務は全ての権利に伴う

五つの誓い

1. 自分を愛するように隣人を愛そう
1. 青少年のためにYMCAにつくそう
1. 世界的視野を持って国際親善をはかろう
1. 義務を果たしてこそ権利が生ずることをさとう
1. 出席第一と奉仕第一とを旨としよう

ワイズメンズクラブの目的

1. 個人的にもまたクラブとしても、その奉仕活動を通じてYMCAの活動を支援する。
2. ワイズメンにふさわしい他の団体を支援する。
3. 地域社会や国際的な問題に関心を持ち、一党一派に偏らない正義を追求する。
4. 宗教・社会・経済・国際などの諸問題について会員達を啓発し、積極的に参加させる。
5. 健全な交友関係を作り出す。
6. この協会の国際・地域・区の事業を支援する。

3月出席率80% 在籍者11名 出席者9名 メネット1名 ゲスト4名 にここ8701円

応急措置と仕組み思考

ブリテン担当 松田 啓

連日新聞1面と3面で報道され、そして3面だけになりその3面から消えつつあるが人々の心に焼き付いた川崎中学生殺害事件。現場には花束の山が築かれ、インタビューに答える涙の声は「回りの自分たち大人が早く気付いて助けなければならなかった」の声が一段と多かったのに学校に対する声は無く声を上げたのは一部教育評論家だけ。

1月10日のNHKスペシャル「空き家列島ニッポン！」で人口減少のため疲弊する地域や市町村問題を取り上げた1時間15分の討論番組があった。疲弊の原因問題点はその土地その土地の条件で異なり激しくやりあう場面もあるほど篤く真剣な討論番組だった。

その中にあきれてしまう場面があった、ある副市長が「私の市は何の問題もありません」という発言。私の知る限りでも小・中学5校が廃校になっている。その発言以降討論の輪からはずれ、俺は末端担当の重荷をふり払ってやっさと満足の笑顔のバストショットが何度か映し出されただけだった。

それと同じ仕組みの中での事と感じたのが今回の事件、上村君のSOSを校長は「思い当たる節は全く御座いません、担任が電話や家庭訪問をしたが本人に会うことが出来ず一度だけ電話で登校をうながせた」と語り、メティアのカメラの前に学校はやることはやった問題は無いと言わんばかりにその記録ノートを見せた。

生徒集会では校長が生徒たちに事実関係を説明し黙祷した。「スクールカウンセラーが毎日来る不安や心配なことは相談するように」とよびかけインターネットやラインに憶測で書き込まないように求めた。

新聞切抜きをつき合わせていると二者に共通する直接関わる末端担当者にしわ寄せされる責任の仕組みが見えてくる。

改善には仕組みの洗い出しをし、それに基づいて新しい仕組みの構築をしなければならない。そうしなければ応急措置の連続になる。

我々も長年の担ぎ続ける問題、新陳代謝の遅い高齢化クラブ。若者たちに眼を注ぎ続けるために仕組み思考に取り掛からねばと思う。

3月例会の様子

日時 3月14日17時(新しい試みとして) 場所 西東京センター

司会 渡辺ワイズ 聖書・祈祷 山口ワイズ 受付 松田ワイズ

ゲスト 小松重雄・相川達男・酒向祐司ワイズ (東京江東クラブ)

ゲストスピーカー ベイサイドクラブ会長 工藤 大丈ワイズ

卓話 会員増強に向けての視点 (ベイサイドクラブ立ち上げの苦労話)

今の私のワイズとのかかわりご縁は社会学部で学んだマックスウェーバーのプロテスタンティズムと資本主義社会の精神。で高い視点からなぜ産業革命がおき資本主義という経済システムが広まっていたか。プロテスタントという新しい教派の働くという精神性と非常にマッチし資本主義そのもののシステムが拡大したという広い視野を学んだ。そのとき少年たちの長時間労働から守ろうと言うところからYMCAが始まったとも聞いた。それがその後私の仕事やワイズ活動に繋がった根っこだと思う。

豊洲ベイエリアタワーマンションに越して子供を幼保一体型のこども園に入れた、えん児の親には社会貢献にちょっとした興味がある感じの父親たちが多く居た。縁あって江東ワイズに入会した、酒を中心にした楽しみの付き合いから見たボランティアは崇高で禁欲的な事と感じていたが、社会貢献はやってみると意外と楽しいなと思った。

江東クラブと東クラブから分派してベイサイドに新しいクラブを作る計画が起動し設立委員会が出来それに参加し没頭した。

まず人集めから着手、立ち上げには最低15人のチャーターメンバーが必要、こども園の父親からリクルートにとりかかった。ターゲットは40歳代働き盛りタワーマンションの住人。幾つかの難関にぶつかった、一昔のベッドタウンは横に広がっていたがベイサイドは立ての高層群、7時30分出勤終電で帰宅、終電を逃しても何とかなるという働き盛りの人たちがほとんど、そのうえド

ア一枚で孤立された空間群と住民の中には転勤族も多い。

ボランティアするのになぜ会費が要るのかという素朴な疑問。喜びを伝える手立ては！
喜びは体験して初めて味わえるものだが体験することが果たしてその人にいいものなのか続けていけるものなのか自分自身に疑問を投げかけることも度々あったが、こども園堀江園長を中心に活動15名のチャーターメンバーを確保。

これからの課題。運営費獲得の事業が未定。具体的何のための活動かを手探り。ワイズ理解、活動の深化と拡大と問題山積。

感じたこと。世の中にははっきりした変化が出ると人々は歪というが、それを越すと慣れてしまって何も言わなくなる。時代の変化の最先端に関わる仕事を持ち、地縁を深めようとする工藤会長の従来型の新生ワイズの理想の姿創りに取り組むに我々従来型メンバーに沢山のヒントを与えてくれると確信した。

「そのままがいいがな」

笠利和彦

この言葉は相田みつを書、佐々木正美著の「育てたように子は育つ」(小学館)で紹介されている。「そのままがいいがな」は、いわゆる教育不要論では決してない。なぜなら正に「育てたように子は育つ」のであって、あの大哲学者カントも「人は教育によってのみ人となることができる」と断言している。子どもは教育され指導されなければならない、という考え方だが、私には一つ気になることがある。学級崩壊が社会問題となった頃、この現象が経験の少ない、どちらかといえば甘い教師のクラスだけでなく、生徒を指導する意欲と力のある、ベテラン教師のクラスでも起こったという点だ。指導が非指導を生み出した訳で、そのショックは、ベテラン教師の方が大きかったというのもうなずける。

大人(教師、親)は責任をもって子どもを教育しなければならないが(和田修二著「教育する勇気」玉川大学出版部)一方で、子どもを教育や指導の単なる対象として、つまり客体としてのみ捉えるのではなく、「固有の意志や感情を持ち、希望や願いを抱く『主体』としての子どもの豊かに『出合う』関係を作ること」も大切なことと思う。(春日耕夫著『『よい子』という病』岩波書店)私たち

大人は、まず、主体としての子どもの全人格を「そのままがいいがな」と認める勇気が必要であり、次に責任をもって子どもを教育する勇気も必要となるのではないだろうか。

(2007年『むつみ誌』から)

卒業式に出て

山口直樹

3月は桜の便りとともに卒業式のシーズンでもあった。

最近、小学校および中学校の卒業式に出る機会があった。両方とも子どもたちの表情が大変輝いていたことが、一番大きな印象であった。小学校6年生も中学校3年生もそれまでのいろいろな思いが駆け巡る中、一つの大きなことをやり終え、次へ進むのだとの純粋な気持ちに満ちた瞳であった。

子どもたちを送り出す教員たちも、万感こもった思いで巣立っていく子どもたちを見送っている。そこには子どもたち一人一人がかけがえのない人であるとの気持ちがこもっていた。

日本は、また世界は今、様々な不安定要素を抱え、様々なニュースが駆け巡り、その不安感を増している。その時にこの子どもたちの今の純粋な想いを素晴らしい形で大きく膨らませてあげるのが、私たちに課せられた使命かもしれないと感じた。

いろいろと考えさせられ、一筋の夢を持たせてくれた卒業式であった。

<西東京 YMCA 便り>

村山 達哉

4月となりました。春の陽気に気持ちも高ぶる今日この頃ですが、皆様いかがお過ごしでしょうか。国立の桜も見ごろを迎え、美しい景色に思わず足を止めて眺めてしまいます。桜が咲いている期間は短くはありますが、桜の美しさに、1年の中でも日本人として生まれたことを嬉しく感じる、そんな季節であると思います。

さて、私が武蔵野多摩クラブの担当主事となって、早いもので1年が経とうとしています。2014年度は、私にとってワイズがより身近に感じられ、そしてワイズメンのみなさまに温かく接していただきながら、西東京センターが支えられていることを、より実感することのできた1年でありました。4月に入ってすぐ、国立市のイベント「さくらフェスティバル」に、今年度もボランティアリーダーと共に参加いたしましたが、同じ西東京センターに関わるリーダーとワイズのみなさまとが顔を合わせることでできる機会が、毎年のようにあることを嬉しく思っています。お互いに関わるだけでなく、実際にリーダーが子どもと触れ合う様子を見ていただくこと、会話を通してお互いのことを知ることは、なかなかない機会であり、これからも大切にしていきたいと感じます。

新年度を迎え、西東京センターのボランティアリーダーたちの顔ぶれも新しくなります。経験値のあるリーダーが多く卒業していきましたが、残った現役のリーダーと共に、新しいリーダーをこれから迎え、2015年度も豊かなプログラムを展開してまいります。

新年度も西東京センターをどうぞよろしく願いいたします。

<西東京センター及び東京 YMCA の主な予定>

- 4/1 東京 YMCA 就業礼拝
- 4/4 中高生グループ活動「TeenS」4月例会
- 4/4-5 さくらフェスティバル
- 4/9 チャリティーゴルフ
- 4/19 軽度発達障がい児 野外活動「Smile」4月例会
知的障がい児・者 余暇活動「あおぞら・つばさの会」4月例会
- 4/26 幼児野外活動「にこにこ」4月例会
小学生野外活動「ロビンソン」4月例会
知的障がい児・者 余暇活動「シャベルズ・いつみの会」4月例会

四月のハッピーバースデー 宮内 ひろみメネット 4・1

四月例会 四月例会は国立さくらフェスティバル参加です。バザー献品収入は YMCA に献金されます。
五月例会は5月13日。

卓話 セルフィメージ(自己概念)について ー私はなぜ私であるかー

児童養護施設東京育成園 園長 渡邊 俊彦氏

司会 松田ワイズ 聖書祈禱 小坂メネット 受付 伊佐・渡邊ワイズ

さくらフェスティバルバザー用献品のお願い 献品は3月第一例会時にご持参ください。衣類は新品のものを御願いたします。